「自律」「共感」「創造」の最上中学校

最上中学校は、昭和61年度に町内4中学校（富沢・東・西・瀬見中学校）が統合して開校し、今年度、創立38年目を迎えました。現在、171名の生徒が在籍しており、地域と協働した様々な活動を行っています。特に、今年度に入って、コロナ禍が落ち着いてきたことから、以前までのような活発な活動に戻りつつあります。

中でも、総合的な学習の時間における「ふるさと探究学習」は、郷土愛の醸成をねらいの一つとして、体験的・探究的な学びを展開しています。今回は、各学年の主な取組みについて紹介します。

最上町の豊かな魅力、再発見【1学年】

11月9日、「最上町の魅力を再発見！」をスローガンに、町内見学を実施。これまで、最上町に関する様々な調査活動をしてきましたが、実際に見て、触れて、感じることをねらいとしました。

まず、旧富沢小学校の「アートギャラリー最上展秋」を訪問し、「あまかけるProject」の皆さんから、ガイドをしていただきました。生徒たちからは、普段はなかなか見ることのできない大きな絵画を見て「〇〇に見える」「えぇっ！△△に見えるよ！」などの感想が聞かれました。

その後は、富山馬頭観音、赤倉温泉une、封人の家をめぐりました。最上町に住んでいながら、実際に訪れたことのない生徒もたくさんいました。インターネットや広報紙などで目にするものとは違い、実物を目の当たりにして、新鮮な感動を得ていたようです。

1年 最上探索

3年ぶり完全実施の修学旅行【2学年】

11月7日～9日の日程で修学旅行に行きました。

1日目は巣鴨商店街での町のPR活動です。この日の東京は最高気温が20度近く。生徒は、用意した手作りPRチラシを歩いている人に受け取ってもらおうと声を張り上げました。アスパー君とパラミちゃんの着ぐるみを着た生徒は、汗だくになりながら写真撮影に応じました。

2日目と3日目は自分たちで考えたコースでの研修です。電車の乗り方や約束した方との対面での会話など、これまで経験したことのない時間の連続でした。

ディズニーランドや劇団四季の観劇など、東京ならではの時間もたくさんありましたが、グループ研修を通して、時間を意識し、仲間と協力して行動することの大切さを学んだ3日間となりました。

2年 修学旅行

将来の町づくりリーダーに向けて【3学年】

3学年から、最上町ゆめ議会と総合的な学習の時間の発表会について紹介します。

7月12日、最上町ゆめ議会が開催されました。町議会の議場で、町長や各課長、町議会議員の皆さんが集まり、町政に関する生徒たちの質問に議会本番と同じ雰囲気で答弁してくれました。生徒たちはこれまで調べたことを基に、自分たちなりのオリジナルのアイデアも提起しました。

11月15日、中学3年間の総合学習の成果について発表しました。テーマごとに分かれた17グループがプレゼンを行ない、最上町への具体的な提言を行いました。当日は本校1、2年生の他、向町小や大堀小の児童の皆さん、町関係者など多くの方々にもご参観いただき、プレゼンに関する感想や質問も多くあり、大変充実した発表会になりました。

3年 最上ゆめ議会

地域おこし協力隊通信

こんにちは！
今月号は張がお伝えします！

11月16日に、大堀小学校と台湾宜蘭県の光復小学校の児童によるオンライン交流が行なわれました。この交流は、令和元年に光復小学校の教員と児童が来町し交流したことから始まりました。近年は新型コロナウイルス感染症の影響により往来が難しくなったことを契機に、令和3年よりオンライン交流に切り替えて交流事業を展開し、今回で3度目の開催です。開催当日まで、両校の先生とオンラインにて当日の流れやコンテンツの確認などの準備を行ない、児童の皆さんも英語で自己紹介の動画を作成し、お互いに送りあってもらい準備をしてきました。当日は大堀小学校の児童が最上町の紹介を行ない、その後、光復小学校の児童が学校での一日のスケジュールを紹介し、最後はお互いに質疑応答を行ない交流は終了しました。児童は、モニターの画面を真剣に見て、友達と台湾の小学校の環境や服装などを語り合うなどして興味を示している様子でした。日本と台湾の子どもたちが触れ合うという貴重な機会を作る支援ができ、とても実りのある活動になったと感じます。両校の担任の先生方、ご協力をいただきありがとうございました。次回のオンライン交流も楽しみにしています。

▲大堀小の児童と、モニターに映る台湾の児童

下記QRコードでSNSをご覧ください！

集落支援員だより

令和5年度三地区合同研修会を開催
～町内の生活支援の活動状況について～

向町地区
今井　正明　支援員

12月2日(土)、中央公民館の「みどりホール」で、三地区（富沢・向町・大堀地区）のコミュニティ推進会議（富沢は地域間連携推進協議会）の合同研修会を開催しました。

始めに、「縮小社会における地域コミュニティのあり方を考える」と題して、伊藤勝副町長より講話を頂きました。講話では、「縮小社会とは端的に言えば人口減少社会である」と前置きした上で、国や最上町の縮小化の現状や厳しい財政状況について、様々な資料に基づき説明がありました。こうした厳しい状況を参加者が認識し、情報を共有できたことは大変有意義であったと思います。

その後、「生活支援の活動について」パネルディスカッションを行いました。パネラーは、富沢地区集落支援員の遊佐忠孝さん、大堀地区のゆりの会「ねこの手ボランティア」の二戸正子会長、そして「アルカディアもがみ」の金田綾子理事長、同じく佐藤恵事務局長です。コーディネーターで町社会福祉協議会事務局次長の阿部竜也氏が進行を行ない、各パネラーの皆様から活動状況報告があり、引き続き質疑応答や意見交換が行なわれました。参加者からは、生活支援の活動に対しての行政の財政的な支援を要望する意見や、行政だけに頼らない民間企業の支援の活用など様々な意見が出されるなど、活発な意見交換の場となりました。

今回の研修会については、参加者の多くの皆さんから大変有意義だったとご感想を頂きました。今後も生活支援等についての研修会を継続していきたいと考えております。